

『気候変動とプラットフォーム学』

～ 持続可能な循環型社会を駆動させる鍵は何処にある？～

世界最速スパコン「富岳」と世界最大級の民間気象会社ウェザーニューズ
気候変動を予測し、地球の未来を考える

情報学と複数領域を連携させ、新しい価値創造を目指すプラットフォーム学。このプラットフォーム学を扱う京都大学「社会を駆動するプラットフォーム学卓越大学院プログラム」では、プログラムの一環として毎月セミナーを開催しています。第7回となる今回は「気候変動×プラットフォーム学」がテーマ。SDGsのゴール13に「気候変動に具体的な対策を」があることを踏まえつつ、パリ協定でも掲げられた「環境と成長の好循環」を実装した社会を持続可能に実現していくには、個人／企業や団体／地域や社会それぞれのレイヤーごとにどういったアクションが必要となるのでしょうか。今回は気象ビッグデータ利活用や環境経済学の観点をもとに、プラットフォーム学的に社会課題とそれらを解決するための道筋を議論します。

〈イベント概要〉

- 開催：2022年1月19日（水）
- 時間：16:45～18:45（履修生は19:15終了予定）
- 主催：京都大学プラットフォーム学卓越大学院
- 協力：京大オリジナル株式会社／株式会社角川アスキー総合研究所
- 事前応募制／オンラインセミナー（Zoomウェビナー形式※）

※セミナーご参加には、お使いのパソコンやスマートフォンで、Zoomへ接続できる環境を事前に準備いただく必要がございます。



お申し込みはこちら
（1月18日12時締切）

登壇者

鈴木孝宗氏 株式会社ウェザーニューズ Climate news プロジェクトリーダー

松岡聡氏 国立研究開発法人理化学研究所 計算科学研究センター センター長

栗山浩一教授 京都大学 農学研究科 生物資源経済学専攻 森林経済政策学分野

原田博司教授 京都大学 プラットフォーム学卓越大学院 プログラムコーディネーター

セミナー登壇者



株式会社ウェザーニューズ Climate news プロジェクトリーダー
鈴木孝宗氏

1996年に信州大学経済学部を卒業後、ウェザーニューズに入社し、B to Bにおける新規市場開発などに従事してきた。鉄道市場では、極端気象が増加する中、予測技術を取り入れ運行業務をサポートするなど、気象データを活用したソリューションサービスを手掛けている。昨年からは気候をドメインとした新規事業開発を目的としたClimate newsプロジェクトのリーダーに就任。文献調査による気候変動の影響だけではなく、CMIPやD4PDF、SI-CAT等のデータを独自解析し、企業の拠点や店舗を対象とした物理リスクを中心とした気候影響分析を行い、TCFDのシナリオ分析や、設備投資の判断情報として提供し、企業価値向上のサポートをしている。



国立研究開発法人理化学研究所 計算科学研究センター センター長
松岡聡氏

東京大学理学系研究科情報科学専攻博士（理学）。東京工業大学情報理工学院特任教授（兼職）。スーパーコンピュータSUBAME開発で省電力等の指標で世界トップランク。超並列計算機並列アルゴリズムやプログラミング、ビッグデータやAI融合の研究に携わる。米国計算機学会ACMフェロー、Gordon Bell賞、スパコン分野最高峰賞IEEE Sidney Fernbach賞を日本人として初受賞。2020年～2021年、史上初4期連続世界1位四冠達成のスーパーコンピュータ「富岳」の総責任者。2018年より現職。



京都大学 農学研究科 生物資源経済学専攻 森林経済政策学分野
栗山浩一 教授

京都大学農学研究科教授。1967年大阪府生まれ。専門は環境経済学。環境価値の評価手法に関して世界の最先端の研究を行っている。1992年、京都大学農学部卒業、1994年、京都大学農学研究科修士課程修了。博士（農学）。北海道大学農学部助手、早稲田大学政治経済学部専任講師、助教授、教授を経て2009年より現職。環境経済・政策学会会長（2020年～2021年）。日本林学会賞、環境経済・政策学会学術賞受賞。主な著書に栗山浩一・馬奈木俊介(2020)『環境経済学をつかむ（第4版）』有斐閣、栗山浩一編著（2018）『企業経営と環境評価』中央経済社など。



京都大学 プラットフォーム学卓越大学院 プログラムコーディネーター
原田博司 教授

京都大学情報学研究科教授。郵政省通信総合研究所（現 情報通信研究機構）を経て2014年より現職。5G、6G通信システム、IoT用通信システムの研究開発、標準化、実用化に従事。取得国内特許は250件以上。自身が開発したスマートメーター用無線システムWi-SUNは、全世界で数千万台導入されている。

●プラットフォーム学連続セミナーを毎月展開

プラットフォーム学は、情報通信を扱う“情報学”と、農学・医学・防災、文系学術などの複数専攻領域を系統的に連携させ、新しい価値創造を目指す新しい学問で、世界を牽引する新しいプラットフォームを構築できる人材の育成を目標としています。

このプラットフォーム学を扱う世界初の大学院である京都大学「社会を駆動するプラットフォーム学卓越大学院プログラム」では、授業の一環として、連携する企業や外部の講師も招いたセミナーを毎月開催しています。第7回の今回は「気候変動×プラットフォーム学」です。

●気象ビッグデータ利活用や環境経済学の観点から気候変動対策の勘所を探る

気候変動対策を考えると、もちろん自然環境や生物多様性などを保全する目的であるため「自然や地球を考える」ことを指しますが、しかしそれらへ影響を与える原因や主体である「我々の生活や社会の在り方を変える」ことも当然ながら意味します。産業や経済活動が持続可能な成長を果たそうとすることを引き続き社会が指向しつつ、同時に気候変動への対策を具体化して方針や行動へ落とし込んでいく。この「環境と成長の好循環」を社会が実装していくには、その目標設定ひとつにおいてもビッグデータ利活用による予測や問題の可視化、そして自然環境への影響について定量的で公正な評価が必要であると言えるでしょう。

2022年最初の開催となる今回は、多分野で最先端の予測や解析に用いられ、2021年11月には大規模機械学習処理において世界第1位のスーパーコンピュータとして性能が認められた「富岳」総責任者や、気象関連企業として最大手であるウェザーニューズ社の気象データを用いた事業開発担当者、そして京都大学で自然環境が有する経済価値の評価を通じて環境保全の社会的意義を示すことへ従事する研究者が集い、本テーマについて議論をします。